

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 ー分析から見てきた成果・課題と今後の取組についてー

区 名	平野区
学 校 名	大阪市立長吉小学校
学校長名	望月 幹雄

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長吉小学校では、第6学年 77名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・国語科の平均正答率は52%で、全国平均正答率と比べて14.8ポイント下回る結果となった。昨年度との経年変化を見ると、全国の平均正答率と本校の平均正答率の差の差が2.1ポイント拡大し14.8ポイント下回る結果となり（平均正答率の対全国比では0.81から0.78へと0.03ポイントの低下）、昨年度から若干の低下傾向を示す結果となった。
- ・算数科の平均正答率は42%で、全国平均正答率と比べて16.0ポイント下回る結果となった。昨年度との経年変化を見ると、全国の平均正答率と本校の平均正答率の差が10.6ポイント拡大し16.0ポイント下回る結果となり（平均正答率の対全国比は0.91から0.78へと0.13ポイント低下）、昨年度より大きく低下する傾向となった。
- ・平均無回答率は国語科で7.5%（全国の平均無回答率3.3%）、算数科で9.5%（全国の平均無回答率3.6%）と、どちらも大きく差の出る結果となった。無回答率に関しては国語科・算数科ともに昨年度より大幅に下回る結果となった。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

- 【国語科調査の結果分析から】
- すべての領域において全国平均正答率と比べて下回っているが、「言葉の特徴」と「書く」領域においては昨年度から改善傾向にある。昨年度より、大阪市総合教育センターよりスクールアドバイザーを講師として招聘し、国語科を中心に学力向上研修を全教員で受講してきた。その際、文章を要約する指導法等の研修をし、全学年で実態に応じて取り入れるようにしてきた成果の傾向が伺える。一方で、「読むこと」領域においては、全国平均正答率と比べて大きく差が開く結果となった。学年に応じた教材を活用して、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるよう文章を読み取る能力の育成が必要である。また、ブロック化予算を活用し、小学生用デジタル新聞を授業や家庭学習に取り入れたり、漢字検定に取り組んだりすることで更なる学力向上に取り組んでいきたい。
- 【算数科調査の結果分析から】
- すべての領域において、全国平均正答率と比べて下回っており授業の改善が必要である。基礎的な知識の定着が不十分である故に論理的思考を十分に発揮できていないなどの課題がみられる。毎時間習熟度別少人数指導で細やかな指導を重ねるなど、基礎学力の確実な定着と論理的思考の形成に向けて、個別最適な学びの提供を進めていく。

### 質問調査より

- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して肯定的な回答した児童の割合は82.6%で、昨年度と比較して上回る結果となった。
- ・「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答した児童の割合は73.9%で、大阪市や全国平均をやや下回るものの、本校の課題である「自己肯定感の低さ」の解消に向けての取り組みを行っているなか、少しずつ良い傾向に向かっていると考えられる。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して「当てはまる」と最も肯定的な回答をした児童の割合は75.4%で、全国や大阪市の平均と比較するとやや低い結果となった。

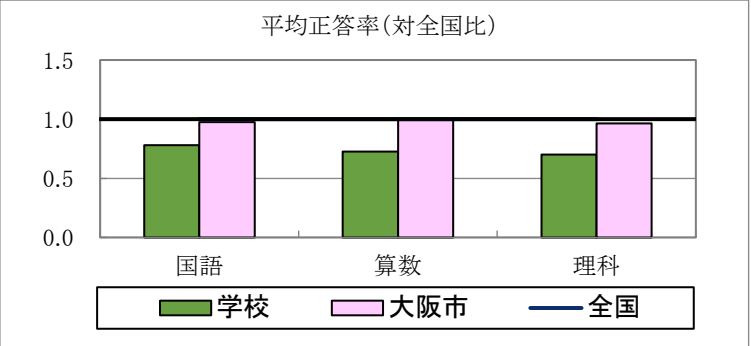
## 今後の取組(アクションプラン)

- ・令和6年度から国語科を研究教科として「書くこと」に焦点を当てた研究活動を行ってきた。スクールアドバイザーの指導のもと、各学年で説明文や物語文の読解から様々なものを書き豊かに表現する児童の育成を目指して全学年で研究授業を実施するなど、指導法の研究を進めてきている。また、深い「読み」ができるよう、語彙力を高める活動・読書活動の充実・視写の活動をどの学年でも取り入れ学校全体で進めてきている。今後も引き続き国語科の指導法を研究していく。
- ・言葉を用いて豊かに表現する、論理的思考を働かせるなど活用できる確かな学力をつけるために、その基礎となる基礎学力の確実な定着を図っていく。基礎基本の定着にむけて、国語科においては語彙、漢字、文や文章などの知識及び技能に関する学習の充実、算数科においては四則計算の確実な定着や単位についての確実な理解を図っていく。学習の中で確認テストの実施と振り返り学習の実施を行うことと合わせ、朝の学習の時間を活用しデジタルドリルやプリント学習に児童自らが取り組むことで、自らの課題の解決に向けて主体的に学ぶ姿勢も育成していく。
- ・毎月全児童を対象にいじめアンケートを行い、そこで訴えのあったことに関して担任より丁寧に聞き取り・指導を行ってきた。また、「いじめについて考える日」には、高学年児童を中心にいじめをなくすよう全校児童に呼びかけ、スローガンを玄関に掲示するなど年間を通していじめ問題を意識する取り組みを行っている。こうした取り組みを通していじめの早期発見と早期対応を行い、全ての児童が安心して登校でき静穏な環境で学びに向き合える環境をつくっていく。また、このような児童理解や児童の置かれる状況の把握を通して、いじめ問題のみならず不登校や不登校傾向にある児童の対応へとつなげたり、児童の自己肯定感の育成につなげていく。

【 全体の概要 】

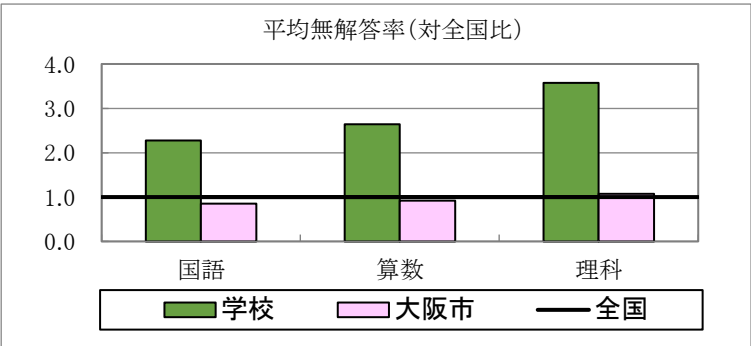
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	52	42	40
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	7.5	9.5	10.0
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

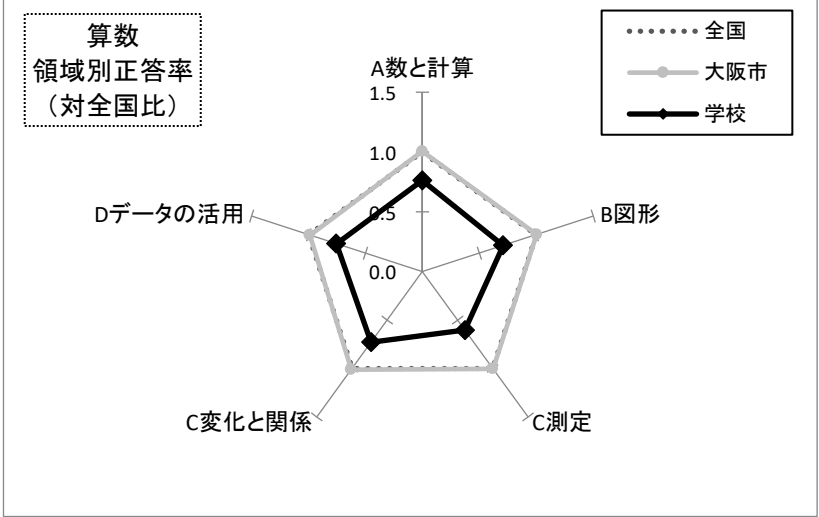
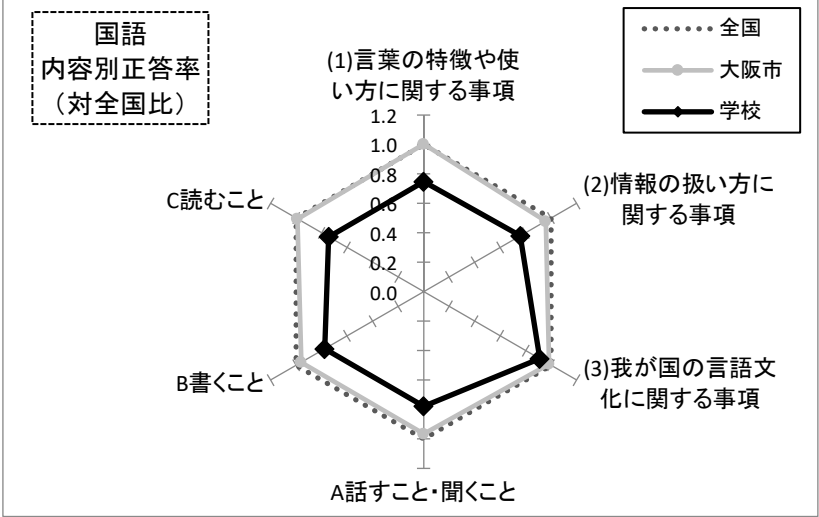
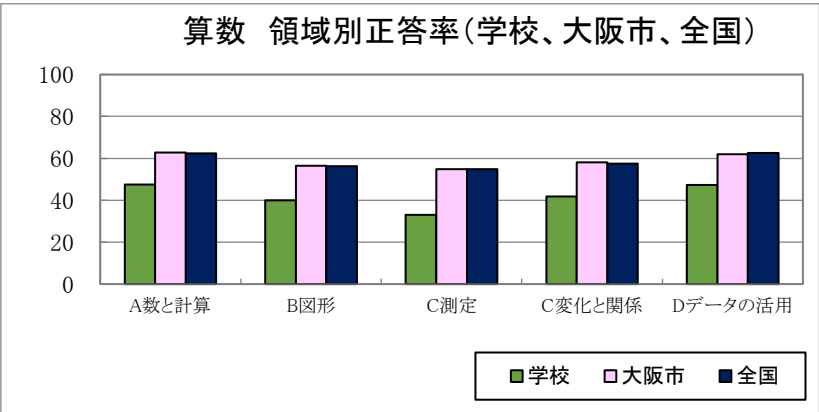
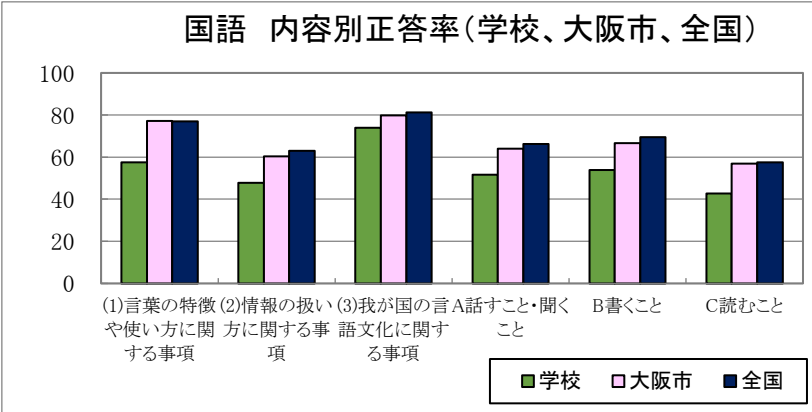


【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	57.5	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	47.9	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	74.0	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	51.6	64.0	66.3
B 書くこと	3	53.9	66.7	69.5
C 読むこと	4	42.8	56.9	57.5

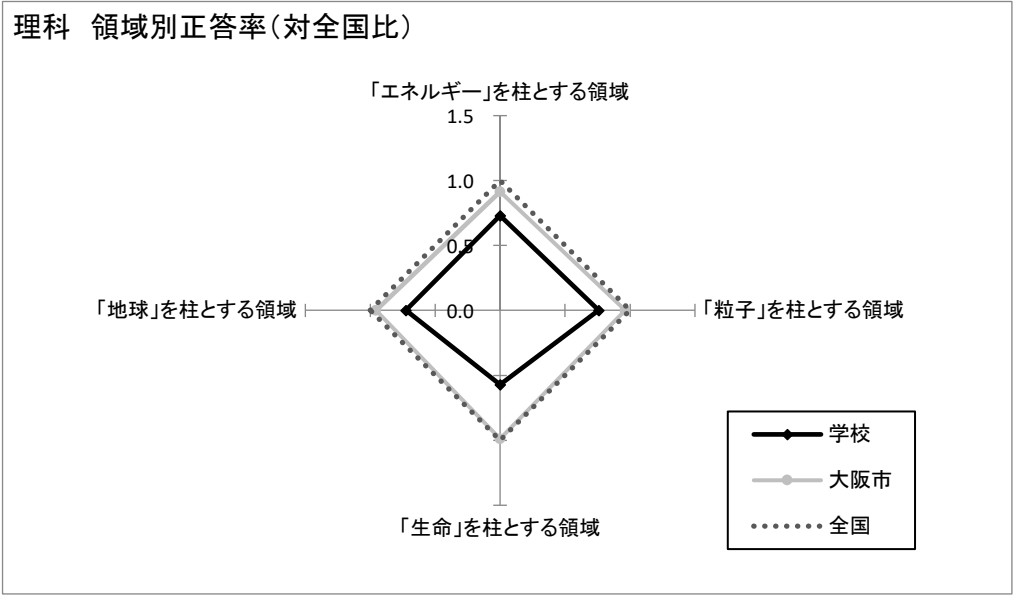
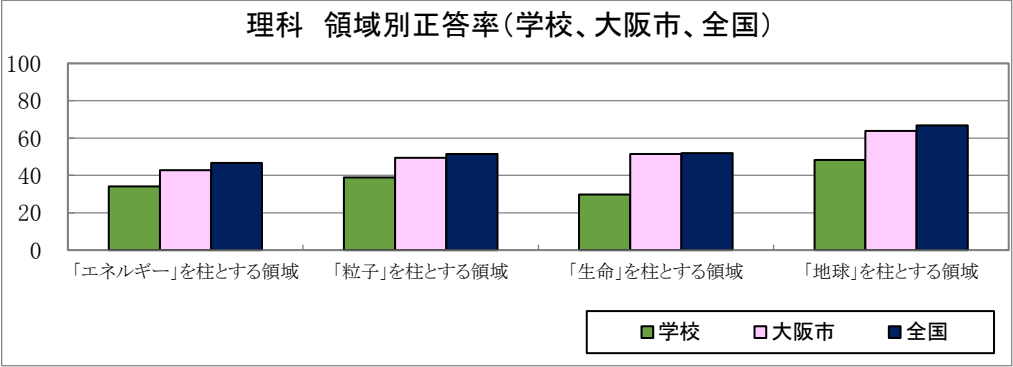
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	47.5	62.7	62.3
B 図形	4	39.9	56.4	56.2
C 測定	2	33.1	54.9	54.8
C 変化と関係	3	41.9	58.2	57.5
D データの活用	5	47.3	61.9	62.6



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	34.1	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	39.0	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	29.7	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	48.4	63.8	66.7



児童質問より

質問番号  
質問事項

1

朝食を毎日食べていますか

2

毎日、同じくらいの時刻に寝て  
いますか

3

毎日、同じくらいの時刻に起き  
ていますか

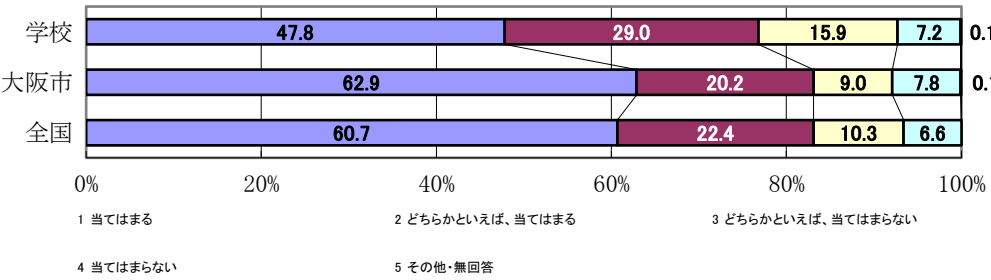
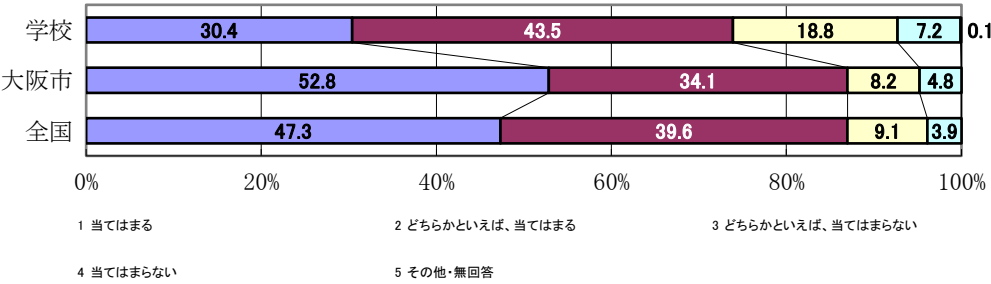
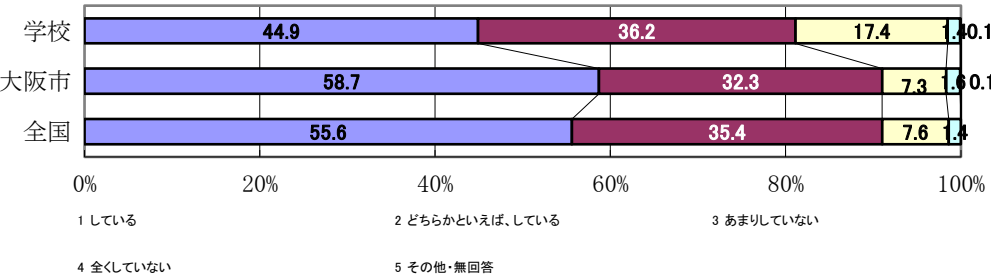
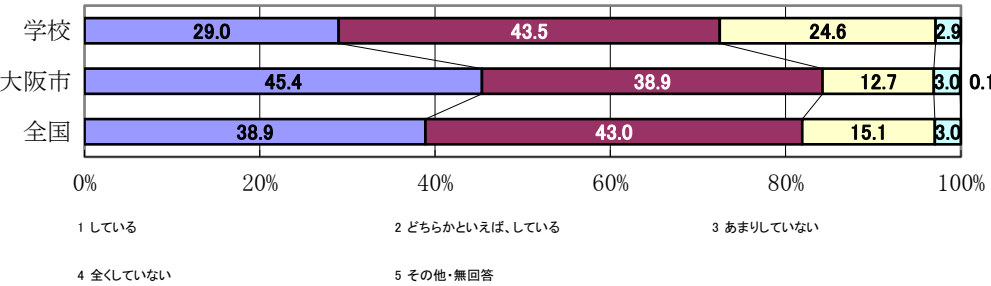
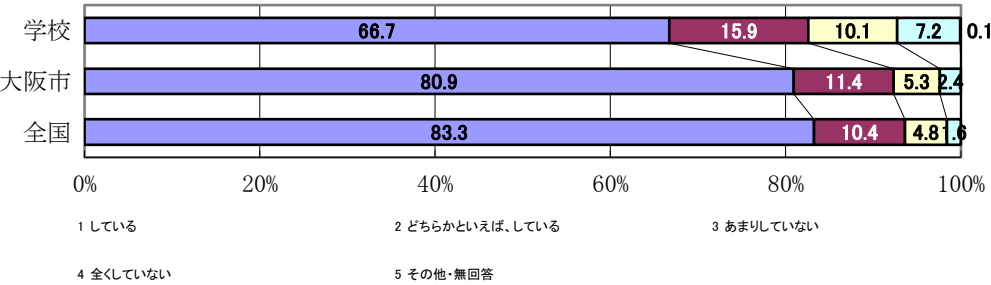
5

自分には、よいところがあると  
思いますか

7

将来の夢や目標を持っていま  
すか

1 2 3 4 5 6 7 8



学校質問より

質問番号  
質問事項

8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

16

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

18

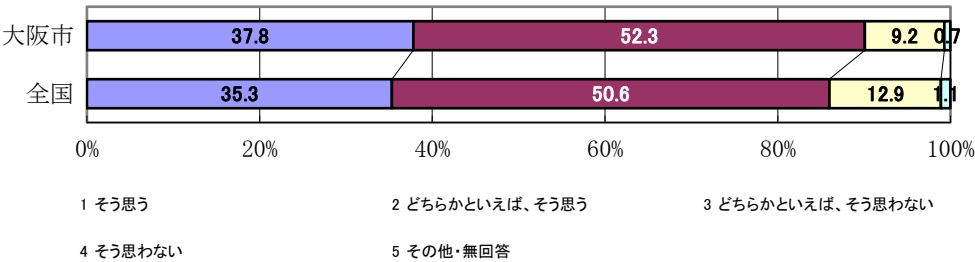
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

19

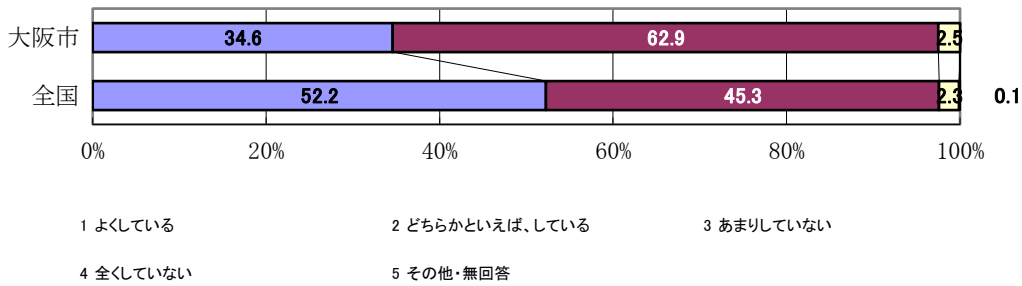
個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

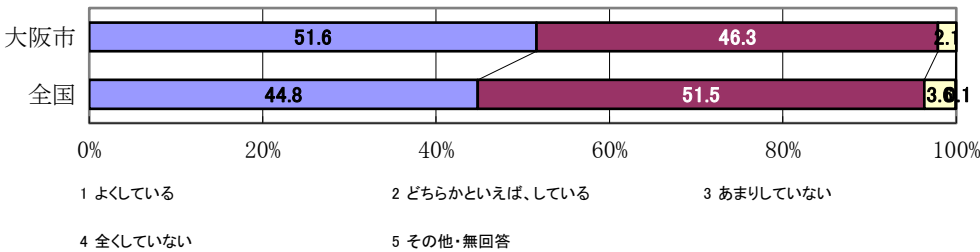
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



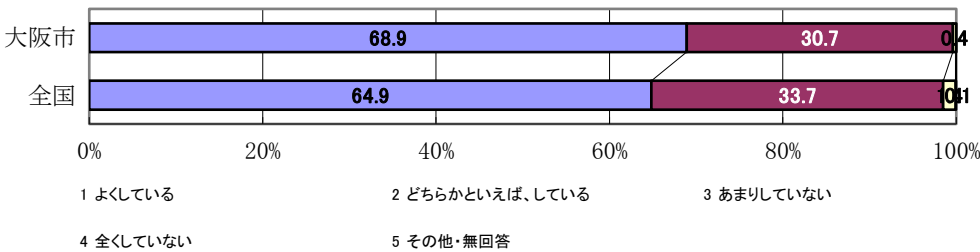
学校 「よくしている」を選択



学校 「どちらかといえば、している」を選択



学校 「どちらかといえば、している」を選択



学校 「どちらかといえば、している」を選択

